

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果報告

令和 8 年 9 月 2 日 学校教育課

1 調査の概要について

(1) 調査のねらい

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、教育施策の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善を行うことをねらいとしています。

さらに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てていきます。

(2) 調査対象（参加者数）

ア 小学校第 6 学年（7 4 6 人）

イ 中学校第 3 学年（7 3 6 人）

※ 参加者数は、国語科の調査に関する参加者数です。

(3) 調査内容

○ 小学校第 6 学年：国語、算数の学力調査及び、学習状況に関する質問調査
(質問調査はオンライン方式で実施)

○ 中学校第 3 学年：国語、数学、英語の学力調査及び、学習状況に関する質問調査
(質問調査はオンライン方式で実施)
(英語は、項目反応理論 (IRT) に基づく CBT 方式で実施)

○ 各小・中学校：学習指導等に関する学校質問

(4) 実施日

令和 8 年 4 月 20 日（月）～ 5 月 29 日（金）

2 結果の概況について

(1) 学力の状況について

ア 小学校第 6 学年(市や県の平均正答率は、小数第一位を四捨五入した整数値です。)

	国語	算数
始良市の平均正答率(%)	64.0	59.0
鹿児島県の平均正答率(%)	61.0	55.0
全国（公立）の平均正答率(%)	60.9	56.4

○ 始良市の平均は、全国及び県平均と比較すると、国語・算数ともに上回っています。授業において、基礎的・基本的な学習内容の定着のための取組を継続的に行ってきたことが要因だと考えます。

○ 課題として、複数の情報（文章、図表、グラフ）を組み合わせ必要な情報を自力で見つけ出し、自分の言葉で根拠を説明することがあげられます。「本文の言葉を使って○字以内で」「根拠を 2 つ挙げて」など、条件を設けた記述や文章とグラフやイラストを関連付けて読解する場面を授業で意識的に設定することが必要だと考えます。

イ 中学校第3学年

(※ 英語は IRT スコアで表示)

	国語	数学	英語
始良市の平均正答率(%)	63.0	54.0	482
鹿児島県の平均正答率(%)	62.0	52.0	476
全国(公立)の平均正答率(%)	63.9	57.0	499

- 始良市の平均は、県平均と比較すると、国語・数学・英語ともに上回っています。全国平均と比較すると、3教科とも下回っています。
- 3教科ともに、目的に応じて必要な情報に着目して考えを整理したり、考えを整理した過程を順序よく説明したりする力をさらに伸ばしていく必要があると考えています。また、考える基となる用語や語句をはじめとする基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っていく必要があります。

(2) 学習の状況について

調査結果の中で、全国の回答結果と比較して、特徴的な内容は次のとおりです。

- 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに低い。【自己肯定感】
- 普段の生活の中で幸せな気持ちになることがあると思う児童生徒の割合が、小学校は全国平均程度で、中学校は全国平均よりも低い。【ウェルビーイング】
- 課題の解決に向けて自分で考え、取り組んでいると思う児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに低い。【主体的な学習】
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると思う児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに低い。【自己調整】
- 分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに低い。【省察力】

(3) 今後の取組

以下のようなことに取組んでまいります。

- 4月に全学年で実施している NRT(標準学力検査)結果と合わせた各学校における分析と分析に基づく具体策の策定に関する指導
- 「学力向上アクションプラン推進会議」における市としての結果概要と今後の取組に関する説明、共有
- 学校訪問や各教科指導法研修会、校内研修や研究公開に向けた授業作りへの伴走支援を通した各学校、教員の授業力の向上

3 家庭・地域へのお願い

学習習慣の定着のためには、落ち着いた心で学習に臨むことができる環境づくりや、学ぶ意欲を高める働きかけとともに、家庭学習の習慣化が大切です。各家庭では、低学年の時から家庭学習にしっかり取り組めるよう環境を整え、子ども自身の選択・決定を促し、がんばりを認めることを中心にしながら、粘り強い声かけや励ましをお願いします。(4月当初に学校から配布される「家庭学習の手引き」を参考にしてください。)

子どもたちが将来の夢や希望に向かって努力できるよう、引き続き、学校・家庭・地域が協働した支援や働きかけをよろしくお願いします。